

# Q. これは何でしょう？



答えは中を見てください！

下のほうがこんでいて、  
網目のもようがあるわね。

これは、1982年に鶏冠井遺跡の発掘調査（向日市鶏冠井町石橋）で、弥生時代前期末～中期はじめの土器と一緒に発見されたものです。何に使っていたものなのか考えてみてください。

▼ 弥生時代の鶏冠井ムラ



うしろの方で  
つくっているものと  
関係がありそうだな。

## 鶏冠井遺跡の歴史

近くに森本遺跡も、この時代の代表的なムラだったんだ。

旧石器時代	約51000年前	日本列島に人が住みはじめる
縄文時代	約4000年前	鶏冠井遺跡・森本遺跡など、低地に縄文人が住みはじめる
	約2600年前	各地に縄文集落が増える
弥生時代	約2400年前	弥生文化が乙訓地域につたわる
	約2200年前	鶏冠井ムラが地域の拠点集落に成長
	約2000年前	人々はほかの場所へ移動し、ムラが廃絶
現代	1968年	鶏冠井遺跡の発掘調査開始
	1982年	銅鐸鑄型を発見

鶏冠井遺跡のあった場所は、現在は田畑や工場になっています。出土した銅鐸鑄型（市指定文化財）は向日市文化資料館で見学することができます。

# 鶏冠井遺跡

がいて いせき



弥生ムラが眠る！

銅鐸鑄型



発行 向日市教育委員会

〒617-8665 京都府向日市寺戸町中野20番地 TEL. 075-931-1111

## かいで 鶏冠井遺跡とは？

向日市民温水プール一帯の低地にあった、縄文時代中期から弥生時代中期のムラ跡です。縄文時代のごみ捨て場や弥生時代の水路、住居跡、多数の土器、お墓の跡などがみついています。弥生時代の鶏冠井ムラは市域では最も早く稲作をはじめました。漁労や狩猟も行い、青銅器や管玉をつくる先進的な人々が住む、乙訓地域の拠点となるムラだったと考えられています。

大昔にも、今と同じようにここで人々が暮らしていたんだね！



### じょうもんとき 縄文土器

口の部分が波打っていたり、表面に縄を押しつけた模様があるのが縄文土器の特徴です。これで食べ物の煮炊きをしていました。



ふしぎな模様があるわ。



### ときかん 土器棺

土器でできた棺おけ



この中に亡くなった人を入れて埋葬したんだ。



## A. どうたく いがた 銅鐸の鑄型

これは石（和泉砂岩）を彫って作った銅鐸の鑄型の一部です。この型の中にとかした青銅（銅・鉛・錫の合金）を流しこんで銅鐸をつくりました。発見当時、全国で弥生中期より昔の銅鐸はまだ見つかっておらず、日本で青銅器をつくりはじめた時期を考える上で重要な発見となりました。

でも、銅鐸って一体何に使うものなんだろう？

### 銅鐸って何？

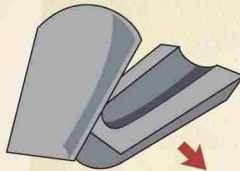


中に舌がつり下げられ、揺り動かして音を出す釣鐘です。鶏冠井遺跡で発見された型から復元できる銅鐸は、高さ18cmと小型の横帯文銅鐸です。400年ほど後の弥生時代後期には1mをこえる大型のものもつくられ、「聞く銅鐸」から「見る銅鐸」へと変化していったようです。当時は金色に輝いており、豊作を祈るマツリなどでその音を響かせていたのかもしれない。

銅鐸はこうしてできるんだ！

### 銅鐸の作り方

1 型をつくります。



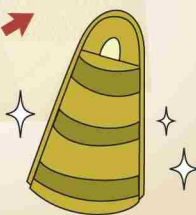
2

とがした青銅を流しこみます。



3

冷やし固めて磨けばできあがり！



### いしぼうちょう 石庖丁



稲刈りの道具

庖丁っていうけど、稲の穂をつむ道具なんだって。



### せつき 石器

せきざく 石鏃(矢じり)と  
せきすい 石錐(きり)



稲作だけでなく狩りもしていたよ！



### たてあなしゅうきょあと 竪穴住居跡

弥生時代の家の跡

けっこう 広がったんだね。



### やよいとき 弥生土器

弥生土器は縄文土器の伝統のもと、朝鮮半島から伝わった新しい技術でつくられた、かたくすい焼き物です。米作りがはじまった弥生時代には、収穫した米を貯蔵する壺や食べ物を盛りつける高杯など、土器の種類も増えました。



今から約二六〇〇年〜二四〇〇年前、稲作が中国から朝鮮半島を経て日本に伝わりました。弥生時代のはじまりです。稲作と同時に金属器の製造も伝わりました。ムラでは豊作を祈るマツリが行われ、小さなムラが集まって大きなムラとなり、やがて指導者が登場します。

# やよいじだい 弥生

今から約二万四〇〇〇年前〜約二四〇〇年前までが縄文時代です。縄文時代の人々はトングリなどの木の実を主食に、動物や魚介類などを補って食べる、狩猟と採集の生活を送っていました。調理に使う様々な土器がつくられるはじめたのもこの時代です。

# じょうもんじだい 縄文